

障害連が声明

参院で自公両党が26日にも生活保護法改悪案の強行採決をねらう中、「障害者の生活保障を要求する連絡会議」（障害連・伊藤雅文代表）は25日、「生活保護法改正案参院採決に反対する」声明を発表しました。

生活保護は、社会から排除されてきた重度障害者にとって最後のセーフティネットであり、その人らしく暮

らすための大切な資源の一つだと指摘。福祉事務所では現在でも「水際作戦」が横行し、多くの重度障害者が地域での自立生活をあきらめざるを得ないと告発しています。

同法案を「障害者の生活保障をおざなりにしたまま、『世帯』を単位とする家族主義や『経済的自立』ばかりに重きを置く自立観を強化する」と批判し、強行採決の中止を求めています。